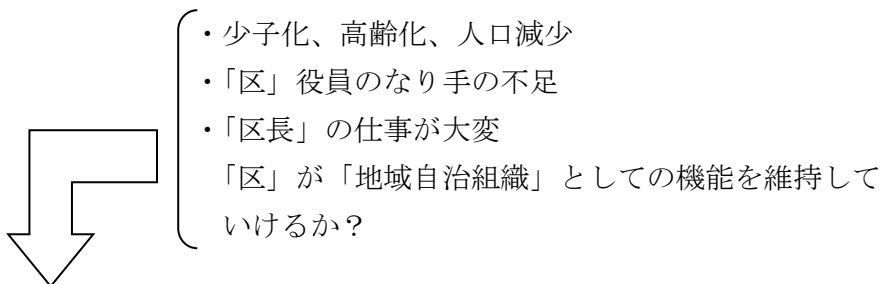


## 第8回小諸市自治基本条例を考える市民討議会 グループ討議内容

### 【グループ1（区長グループ）】

テーマ「地域自治組織としての機能を果たしていくためには 区はどうあればよいか  
～現状を踏まえた、今後の自治組織のあり方も含めて～」



### 「区」より大きな枠組みの「地域組織」の検討の必要性

- ・個別の案件では、地域の課題について協議し、優先順位づけなどが出来ているものもある。
- 例) 区長会総会での各区からの議題について、地区（旧村）ごとに議題をしぼって提出している。
- 小学校区単位で子どもの安全対策に取り組んでいる。など

そのためには・・・

#### ※区の役割の整理

- ①区独自（固有）の活動
  - ②市等から依頼されて行う業務  
(なんでもかんでも区長申請)
- } 整理が必要

#### ※地域組織で取り組んだ方が良い分野等の検討

区の個性を生かした取り組みが必要

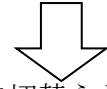
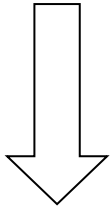
#### ※区の組織等の一定の標準化

- ①役員の任期  
(1年交代ではなく、複数年の任期とする)
- ②事業年度の切替え時期  
(1月～12月を4月～3月に切替える)

市から区への働きかけが必要  
(切替えによるメリットの提供など)

区長任期 長く務めた人への報償制度の創設	各区の役員同士の意見交換でお互いに刺激合う
区の課題・状況等の情報を多くの区民が共有することが必要	区民が自分のこととしてとらえる

これまでに切替えが実施された区の具体的な事例の調査



これまでに切替えが実施された区を  
参考にした「ひな形」の提示など

これらの積み上げが今後、機能的な「地域組織」の立ち上げにつながっていく可能性がある。

## 課題

①地域組織の「長」を誰が担うか。

「長」の任務は大変 → サポートが必要

②区と行政との専門窓口の設置（窓口の一本化）

実現に向けた継続的な話し合いが必要

各種委員の区を越えた活動との連携（活動地区割マップの作成等）	すぐれた区取り組みをお手本とする	地域単位での指標の提示
--------------------------------	------------------	-------------

## 【グループ2（市民活動団体＋事業者）】

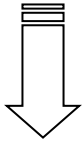
テーマ 『拠点』の役割と、市民活動のための道筋 ～“ありたい姿”を描く～

### 情報

- ・イベント
- ・市・民間・区での取り組み
- ・活動団体
- ・個人の活動

他の人がやっている  
ことを知りたい!

- ⇒ ボランティアセンター（小諸市）に情報がある
- ⇒ 知らない人もいる
- ⇒ 役割が果たされていないのでは？  
登録団体に偏りがあるのでは？  
すべてを網羅していない



### 拠点の役割

- ・なんでも情報が集まっている ⇒ 情報の受発信  
なんでも情報を広報してくれる
- ・それぞれのものを つなげる  
情報・イベント・活動団体・人・区 etc.

ホームページの  
充実  
情報を受けたり、  
発信したりできる

例：困りごとを助けてもらえる仕組み

ケガをしていて2階の家から荷物が下ろせない→拠点に連絡→登録してある近所の人に連絡  
→依頼を受けた人が行って手伝い  
雪かきでも、草取りでも、日常の些細なことも、出来る人が手伝う仕組み

### ⇒ 市民の安心へ

高齢者クラブが  
減少傾向にある  
今は37地区にし  
かない

地域に対して  
リーダーを育てて  
いない

区に組織力がな  
い

ボランティアの力が  
必要なのは、  
災害時

日常的なボラン  
ティア  
緊急時のボラン  
ティア

緊急時の体制と  
仕組みが必要

組織と仕組みを  
育てる

市も一緒にやっ  
たほうがいい

責任の所在をは  
っきりさせる必要  
がある

現在は、社協と  
市で協定を結ん  
でいる

今までの体制で  
は ダメ  
機能していない

⇒ 対等な組織であること

「拠点」を誰が担うか？

自由に動くために

⇒ 市民がやる！

⇒ 市民の自治力が上がる！

市も一緒に！（知らん顔、任せきりは ダメ!!）

それが協働！

← 区からの情報が集まる

⇒ 区へ情報が届く

横のつながり

人と人のつながりがあるのは  
区

68区が  
拠点

機能分担

新図書館が  
「拠点」

新図書館では  
実質的に場所  
がないのでは

現在のボラン  
ティアセンタ  
ーを活かす

ボランティアセ  
ンターを情報  
の集積地に

図書館を  
情報の発信  
地に

ボランティアは  
一時的なもの

ボランティアは  
長続きしない  
のでは

みんなから認  
めてもらうとい  
う実感  
資金的な裏  
付けは必要  
受け皿の組  
織  
⇒ 継続へ

行政の支援  
が重要

資金  
⇒ 継続性の  
保障

ボランティアから  
事業化する  
仕組み・支援

ボランティア  
には限界があ  
る(民生委員)

継続が  
難しい

情報の力  
つなげる力

それには

人

市の支援も必要！

人材の確保  
自由に動ける  
仕組み

コーディネー  
ター役の資質  
その確保

情報は中央  
に

情報収集  
システム

情報の受発  
信の  
システム化

子どもの頃か  
ら、市の仕事に  
気軽に触れる

専門分化したものを一元化

⇒ つなげる役割

⇒ 私たち（市民）がやる！

## 【グループ3（市職員＋議員グループ）】

テーマ「行政への市民参加の方法 ～具体例を使って市民参加を考える～」

### 市民参加のための第一歩

- ・情報公開と情報共有が重要 ⇨ 丁寧な情報提供を行うこと  
素案の段階から情報を公開してほしい。
- ・情報発信の「拠点」づくり ⇨ ボランティアセンターや図書館  
各施設間のネットワークづくり
- ・先進地の情報収集なども必要

### 多様な意見を収集する機会の創出

- ・アンケート調査等による実態把握、意向調査
- ・ワークショップなどの手法による意見の集約 ⇨ 市民の能力も活用する。
- ・審議会等委員の選出方法の多様化（公募してもいつも同じような顔ぶれ）  
⇨ 無作為抽出による委員の発掘
- ・多様な年齢層の意見を聞く場を設ける。 ⇨ 中学生や高校生
- ・電子会議室（双方向）  
10代～40代の意見収集が可能
- ・地域に入ってもいぬ人の意見を吸い上げる ⇨ 女性や子どもの意見  
（女性の場合ファシリテーターが女性の方が意見を出しやすい）
- ・休日に会議を開催することで勤めている人が参加できる。
- ・地域の課題解決のための広域的な会議の開催（小学校区）  
職員のファシリテーション能力が必要となる。  
⇨ 地区担当者のスキルアップ・バージョンアップ
- ・各種団体のヒアリング（青年会議所等の若者の意見を聞く場）

### その他

- ・地域への予算配分を行ってはどうか。
- ・市民がまちづくりへの参加と経験を積むことが必要
- ・計画の策定にかかわった市民を推進委員とする。